

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 はるにれ		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0114210818&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日頃より、各入居者様と少しでも関わり接する機会を持つことで、不安や不満を出来るだけ軽減でき、本人の希望に添えるように心掛けています。
また、食事はその時期の旬を提供させて頂き、外出をする機会を持つことで外気に触れ、目と肌で季節を感じて頂けるように支援しています。
近所に保育園、幼稚園、小学校などがあり散歩の途中などの時は、子供たちと触れ合い、お話をすることで心の癒しになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域との交流と連携体制>
日常的な散歩や買い物等での挨拶や町内会の清掃活動等に積極的に参加して交流を図っている。また、運営推進会議や事業所の行事への参加協力で事業所の現状や地域との連携の必要性を理解してもらえるように取り組んでいる。近所の幼稚園のお遊戯会見学や町の文化祭等の行事に参加し、相互に交流している。
<利用者の楽しみごとへの支援>
利用者の希望や意向に出来る限り添えるように、外出する機会や事業所内で生活に変化を持たせられるように取り組んでおり、尾岱沼漁港のエビ祭りや養老牛温泉へ紅葉狩り等の普段行けない場所への支援や回転寿司、バイキング等の外食の機会を設けている。また、よさこい踊りや三味線、演歌歌手の慰問など外部からの来訪もあり、利用者が楽しんで生活が営めるように取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎月の会議でスタッフで読み上げて共有をしている。また、居間や休憩室の目の届く所にも理念を掲げ実践が出来るように努めている。	事業所独自の理念を作り上げて、毎月の会議で職員全員で唱和し、実践出来るように取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、清掃活動に参加をしたり、散歩中にはゴミを拾うなどを行っている。地域の幼稚園にお遊戯を見に行くなど交流をしている。	町内会の清掃活動や地域行事に積極的に参加し、事業所の避難訓練等の行事にも地域住民に参加して頂いている。また、地域の幼稚園のお遊戯会見学や小学校とも交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や日々の活動を通じて相談させて頂き、方法の提案や理解を求めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で御家族や町内会から頂いた意見を検討をしたり、実践できるように努めている。	運営推進会議は年6回実施しており、行事の活動状況、火災避難訓練について具体的に話し合っている。また、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加をして頂いたり、必要に応じて連絡をして相談させて頂いている。	町の担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深め、気軽に相談できる関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行ったり、研修に参加をして理解に努めている。緊急時以外は拘束をせずに利用者に寄り添いながら対応をさせて頂いている。防犯の観点から、18時から翌9時までは外の玄関を施錠させて頂いている。	グループホーム協議会の研修会参加や事業所内での勉強会を実施し、身体拘束をしないケアの実践への取り組みが行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加をして学ぶ機会を設けている。また、スタッフ全員で入居者様にあざ、変色は無いか注意をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までも数人、成年後見人制度を利用されている方がいる。勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時には意見や要望をいただいている。また、入居者様からも普段の会話の中から意見を頂いている。定期的にホームお便りを送付させて頂き様子を伝えるように配慮をしている。	家族と本人の関係が断ち切れないように毎月の利用料の支払い等の来訪時や運営推進会議、普段の面会の際等に不満や意見があれば気軽に言って貰えるように努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面接を行ったり、会議などで意見が言えるように努めて、反映できることは取り組みをしている。	毎月の職員会議や日常業務を通じて、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、個人面談の機会を設けて個別に話ができるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月おこなっており、参加を促している。また、釧根地域での研修会もあり、出来るだけ参加が出来るように取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、情報交換、交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所日前より情報を頂き対応すると共に、入居日やその後数日の内に話す機会を多くもち、不安や心配等はないか確認をするようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学や入所相談時には時間を掛けて話す機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族から伺った話の中で必要な支援を行うように努めている。また、必要時には法人の相談員とも連携を取り、そのように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑作業、レクリエーションなど、本人の好みや出来る事に応じて、可能な限り主体的に生活して頂けるように支援し、喜怒哀楽を職員と共に共有をしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、普段の生活状況などを伝える事や、自室でゆっくりお話しが出来る事でお互いの思いが共有できるように環境に配慮をするように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人や友人が訪ねてこられるようにしている。また、馴染みの店などに行けるように支援をしている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れる事がないように思い出話をしたり、馴染みの店へ出かけられるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が1つの居住に住む為、中には孤立してしまう方もいるが、職員が個々に配慮をして、全員が楽しく暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後も、入院先などの面会を行い、関係が維持できるように支援をしている。また、御家族については退去後も行事に参加や手伝い等、協力して頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いなどを伺ったり、御家族から情報を頂き、御本人の意向に沿えるように努めている。	センター方式やMDSのシートを活用して、家族や本人の意向や希望を把握し、日常の会話や表情の中からも本人の思いを聴取するよう取り組んでおり、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やMDSシートを活用する事や、本人は元より、御家族にも御協力頂き、本人の今までの生活を把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、スタッフ間で現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、御家族の意見や本人の思い、職員の考え等をまとめ介護計画に反映している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式やMDSのシートを活用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、ケース記録に記入し情報の共有に努めている。必要に応じて、介護計画の見直しも行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や各種手続きも本人や御家族が求めている場合は対応するように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や幼稚園の訪問など楽しみがもてるように努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携をしており、支援もある。御家族からの要望があれば専門医等の受診も行っている。	母体の医療法人の医師が月2回、往診されており、受診はすべて事業所に対応している。利用者、家族の要望があれば専門医等の受診にも柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は行えなくなり月に2度の訪問看護はなくなったが、法人の外来主任や病棟の看護部長とは都度連絡を取り、適切な医療が提供できるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の相談員と共にそのように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには、制度や法律上限界があると思うが、中でも入居者や御家族の御意向に添える様に努めていきたと考えている。現在は医療機関の支援を受け対応している。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを家族に十分説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防が開催している救急救命への講習や、ホーム等での勉強会の開催により学習する機会を設けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、また、ホーム独自の災害時連絡網の作成や、非常食の確保に努めている。	消防署の協力を得て、地域住民の協力の下、年2回夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、スプリンクラーの設置、緊急時マニュアル、設備の定期点検や非常招集連絡網も整備している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は馴染みの関係が深いほど侵されやすいと考えており、都度配慮するように心掛けている。	記録などの個人情報の扱いは、十分に注意しており、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場その場での個々による意見に耳を傾け、指導的にならず方法として提案し、自己決定して頂く場面を多くする様に心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同で行える事の楽しみを増やし、入居者様に寄り添いながら希望を引き出し、日々のケアに努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、髪を染めたり、美容室や洋服を買いにとお店にお連れをしている。また、本人の好みや希望に添える様に支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況や体調に応じて、調理や片づけをする事で、「食べる」だけの楽しみだけでなく、他者との関わりや楽しみを持って頂ける様に努めている。	利用者の嗜好を把握し、一人ひとりの力を活かしながら、調理や食事の準備と一緒に楽しんで行えるよう取り組んでいる。また、その日の体調に合わせた食事を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や疾病に合わせた量や水分等を、主治医と相談し、また、嗜好の確認を行いながら入居者が「食べたい」と思うような物を調理するように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内のトラブルが見られた際は、主治医や歯科医師との連携により迅速に対応するように努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた対応を行うように努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘に対しての対応を心掛け、日々ケアを行うように努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴も行っており、入居者の希望に沿った曜日や時間帯に配慮して入浴を行うように努めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が楽しく入浴できるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運度や環境の整備に配慮し、休息や安眠ができるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で、服薬内容を把握しており、症状の変化の際には、医師、看護師に相談を行っている。また、服薬時には飲み込むまで確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に対し行ってきた事や、入居者様からの希望に対して役割を分担して日常生活を共有するように心掛け対応するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の全ての訴えや希望に対応できている訳ではないが、可能な限り本人の意思や希望に沿って行うように努めている。	日常的に散歩や買い物等、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。また、尾岱沼のエビ祭りや養老牛温泉への紅葉狩り、幼稚園のお遊戯会見学等普段は行けないような場所への支援も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病状にもよるが、希望や訴えがある入居者に対しては、御家族とも相談し考えられる危険性等を説明し行うように努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自室に設置したり、携帯電話をお預かりし希望があれば、お渡しするなど自由に連絡が取れるように支援をしている。また、手紙についても同様。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病気による混乱を招かない様に、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。	共有空間は利用者の手芸作品や季節が感じられる作品を飾り、日常の生活や行事の際の写真等を掲示している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられず、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間と食堂が別々になっており、思い思いに過ごせる様な空間になっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、出来るだけ使い慣れた物を持ってきて頂く様に説明をして、居心地がよく過ごせるように努めている。	居室の入り口には、職員手作りの表札が掲げられ、居室内は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて、段差の解消やベットの高さなど環境を工夫して、自立して過ごせる場を増やせるように努めている。		

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 しらかば		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

職員は「いつも明るく元気に」を大切に、利用者との生活を「頼り、頼られながら」共有する事で、馴染みの関係を構築すると共に、利用者達が自由に意見や考え、思いを述べる事が出来る様に努めています。

又、日々の活動の中では全体で行うレクリエーションの他に食事やお茶の時間を全員で集まる時間としてコミュニケーションを図ったり、個別では家事、調理、洗濯、掃除等生活の中で取り入れている他、生け花や折り紙作成等、利用者が自分達の役割を決め、自分で決定し、無理をして行わない様に配慮しながら、責任や楽しみのある役割を一緒に考え提供出来るように努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0114210818&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月8日

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎月の会議でスタッフで読み上げて共有をしている。また、居間や休憩室の目の届く所にも理念を掲げ実践が出来るように努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、清掃活動に参加をしたり、散歩中にはゴミを拾うなどを行っている。地域の幼稚園にお遊戯を見に行くなど交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や日々の活動を通じて相談させて頂き、方法の提案や理解を求めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で御家族や町内会から頂いた意見を検討をしたり、実践できるように努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加をして頂いたり、必要に応じて連絡をして相談させて頂いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての勉強会を行ったり、研修に参加をして理解に努めている。緊急時以外は拘束をせずに利用者寄り添いながら対応をさせて頂いている。防犯の観点から、18時から翌9時までは外の玄関を施錠させて頂いている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加をして学ぶ機会を設けている。また、スタッフ全員で入居者様にあざ、変色は無いかに注意をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までも数人、成年後見人制度を利用されている方がいる。勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時には意見や要望をいただいている。また、入居者様からも普段の会話の中から意見を頂いている。定期的にホームお便りを送付させて頂き様子を伝えるように配慮をしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面接を行ったり、会議などで意見が言えるように努めて、反映できることは取り組みをしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月おこなっており、参加を促している。また、釧根地域での研修会もあり、出来るだけ参加が出来るように取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、情報交換、交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所日前より情報を頂き対応すると共に、入居日やその後数日の内に話す機会を多くもち、不安や心配等はないか確認をするようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学や入所相談時には時間を掛けて話す機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族から伺った話の中で必要な支援を行うように努めている。また、必要時には法人の相談員とも連携を取り、そのように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑作業、レクリエーションなど、本人の好みや出来る事に応じて、可能な限り主体的に生活して頂けるように支援し、喜怒哀楽を職員と共に共有をしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には、普段の生活状況などを伝える事や、自室でゆっくりお話しが出来る事でお互いの思いが共有できるように環境に配慮をするように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人や友人が訪ねてこられるようにしている。また、馴染みの店などに行けるように支援をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が1つの居住に住む為、中には孤立してしまう方もいるが、職員が個々に配慮をして、全員が楽しく暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後も、入院先などの面会を行い、関係が維持できるように支援をしている。また、御家族については退去後も行事に参加や手伝い等、協力して頂いている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いなどを伺ったり、御家族から情報を頂き、御本人の意向に沿えるように努めている。			
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やMDSシートを活用する事や、本人は元より、御家族にも御協力頂き、本人の今までの生活を把握するように努めている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用して、スタッフ間で現状の把握に努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、御家族の意見や本人の思い、職員の考え等をまとめ介護計画に反映している。			
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、ケース記録に記入し情報の共有に努めている。必要に応じて、介護計画の見直しも行っている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や各種手続きも本人や御家族が求めている場合は対応するように努めている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や幼稚園の訪問など楽しみがもてるように努めている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関と常に連携をしており、支援もある。御家族からの要望があれば専門医等の受診も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は行えなくなり月に2度の訪問看護はなくなったが、法人の外来主任や病棟の看護部長とは都度連絡を取り、適切な医療が提供できるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の相談員と共にそのように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには、制度や法律上限界があるとは思いますが、その中でも入居者や御家族の御意向に添える様に努めていきたいと考えている。現在は医療機関の支援を受け対応をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防が開催している救急救命への講習や、ホーム等での勉強会の開催により学習する機会を設けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時の訓練は定期的に行い、また、ホーム独自の災害時連絡網の作成や、非常食の確保に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は馴染みの関係が深いほど侵されやすいと考えており、都度配慮するように心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場その場での個々による意見に耳を傾け、指導的にならず方法として提案し、自己決定して頂く場面を多くする様に心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同で行える事の楽しみを増やし、入居者様に寄り添いながら希望を引き出し、日々のケアに努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、髪を染めたり、美容室や洋服を買いにとお店にお連れをしている。また、本人の好みや希望に添える様に支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況や体調に応じて、調理や片づけをする事で、「食べる」だけの楽しみだけでなく、他者との関わりや楽しみを持って頂ける様に努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や疾病に合わせた量や水分等を、主治医と相談し、また、嗜好の確認を行いながら入居者が「食べたい」と思うような物を調理するように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内のトラブルが見られた際は、主治医や歯科医師との連携により迅速に対応するように努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた対応を行うように努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘に対しての対応を心掛け、日々ケアを行うように努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴も行っており、入居者の希望に沿った曜日や時間帯に配慮して入浴を行うように努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運度や環境の整備に配慮し、休息や安眠ができるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬一覧表で、服薬内容を把握しており、症状の変化の際には、医師、看護師に相談を行っている。また、服薬時には飲み込むまで確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に対し行ってきた事や、入居者様からの希望に対して役割を分担して日常生活を共有するように心掛け対応するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の全ての訴えや希望に対応できている訳ではないが、可能な限り本人の意思や希望に沿って行うように努めている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病状にもよるが、希望や訴えがある入居者に対しては、御家族とも相談し考えられる危険性等を説明し行うように努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自室に設置したり、携帯電話をお預かりし希望があれば、お渡しするなど自由に連絡が取れるように支援をしている。また、手紙についても同様。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病気による混乱を招かない様に、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間と食堂が別々になっており、思い思いに過ごせる様な空間になっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、出来るだけ使い慣れた物を持ってきて頂く様に説明をして、居心地がよく過ごせるように努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて、段差の解消やベットの高さなど環境を工夫して、自立して過ごせる場面を増やせるように努めている。		

目標達成計画

作成日: 平成 24年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	研修会など他の事業所の方々と交流する場が多くなってきているが、勤務状況などから参加する人数が限られているのが現状。	今後はより多くのスタッフに参加できる場を提供していき、他事業所の方達との交流を、サービスの質の向上に繋げていきたい。	シフトの状況に応じては、研修などに参加する事が出来ないこともあるが、出来るだけ、シフトの調整を行い参加できる場を確保していく。	12ヵ月
2	34	スタッフを出来るだけ定期的に救命講習に参加をして、緊急時の対応が出来るようにしていきたい。	全スタッフが救命講習を受け、基礎知識と実践が出来るようになる。	1、消防で行っている救命講習に参加 2、定期的に事業所で勉強会の開催	12ヵ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。